

## 第5回軽米町総合戦略策定委員会議事録

○開催日時：平成28年2月23日（火）午後1時30分～3時10分

○開催場所：軽米町役場3階会議室

○出席者

委員：岩手大学名誉教授 齋藤徳美、岩手県立大学特任准教授 千葉実、軽米町商工会青年部部長 山野下誠、新岩手農業協同組合軽米支所長 山下祐一、二戸地方森林組合参事 小林康夫、軽米建友会会長 坂本昌彦、二戸地域振興センター所長 佐々木亨、岩手県立軽米高等学校校長 熊谷拓也、株式会社岩手銀行軽米支店支店長 田澤義明、株式会社みちのく銀行軽米支店支店長 藤原博幸、株式会社工フエム岩手営業部販促企画室長 館澤徳寿、軽米町商工会女性部部長 高橋静子、軽米町認定農業振興会会長 田中祐典、一般公募 堀米孝太郎、竹澤勳

事務局：(町) 山本町長、藤川副町長 (総務課) 日山、吉岡、畑中

委託業者：非営利活動法人仕事人倶楽部 山田、水野

### ○開会

(事務局長) 会議の成立について

本委員会は、20名の委員のうち14名の委員の出席をいただいたので、設置要綱第6条第2項により過半数の出席をもって会議が成立することを報告する。

### ○委員長あいさつ

(齋藤委員長) 第5回目となった。前回4回目までで全体はまとまったが、今回若干の修正がある。

皆さんの合意を得られればと思っている。今後の進め方についてはこの委員会で決定し、事業の推進にあたっては、町長をはじめ町役場の方々を中心に、ここにいる皆さん方が実行主体となる。町役場と皆さんで進めていく合意づくりができればと思っている。

### ○協議事項

#### (1) 軽米町人口ビジョン・総合戦略について

資料について説明(事務局：省略)

#### (2) 取組の現状と目標、今後の事業の展開について

資料について説明(事務局：省略)

(齋藤委員長) 数字について出されているが、年度途上の数字であり、これがいい・悪いということはないかと思う。

(委員) 軽米高校の出願者の数が48人と報告されていたが、中学校の卒業生は何人か？

(事務局) 今確認して、お知らせする。

(委員) 48人というのは少ないと感じる。45人が軽米中からの出願者。他からが3人。60人くらいが卒業生ではないか？どこに何人志願しているかがわかれば教えてほしい。

(事務局) 中学3年生が69人。志願先については確認する。

(齋藤委員長) 69人いるなら、もう少し地元に残ってほしいということか。

(委員) その通り。

(齋藤委員長) 学びたいという人を引き留めるのは良し悪しもあるだろう。地元に残って欲しいというのは、皆さんの意見としては確かにあるだろう。

(委員) 志願者数のパーセンテージについては、ここ数年横ばいで 65%程度。二戸管内は、すべて定員割れしている。定員割れの度合いは、軽米高校は少ない方。伊保内、葛巻は地元出身者の割合がもっと高い。中高一貫の制度の中で、どの高校に越境入学したかはつかんでいる。が、もう少し頑張れば来てもらえた、というケースは少ない。専門分野やスポーツ(部活)に応じ、それぞれの希望に合わせて選んでいると言う状況。地域の入試の状況が以前に比べて随分変わった。昨年より中学の卒業生が 20 人くらい減った。

(町長) 先般、高校再編の会議にも出たので、その状況をお知らせしたい。軽米高校については、H32 年度までは現体制で行くとのこと。ただ、軽米高校は 2 クラスであり、3 クラスの頃に比べたら先生の数も減っている。先生の数が減ると、どうしても専門の教科の配置やスポーツ関係の指導で支障が生じ、魅力が若干落ちているのかも知れない。先生を極力減らさないこと、中高一貫の充実をはかりながら、軽米高校を支援していきたい。「町立」高校という意識で、そのまま高校に進めるような流れにしていきたい。

(齋藤委員長) 生徒からすれば、学びたい高校を選択することもあるだろう。地元としての支援も必要であり、その流れで進めていければ。

(委員) 生徒が減ると先生が減って困るというのは、若干誤解がある。募集定員が減ると、教員が減る。1 学級減ると、2 人減る。3 年かけて 6 人減る、という勘定。H32 年まではそのままということなので、しばらくは減らない。生徒の実数が減ると先生が減るというイメージがあるが、そうではない。あくまでも、募集定員に対しての教員の割当数。

(齋藤委員長) そうなことだそうなので、もし誤解があれば正していただきたい。

(委員) 事業所の数が人になっているが、誤字か。地域コミュニティの活性化に関心がある。地域活動支援事業年間実施件数が減っているが、補助金のルールが難しい。チャレンジ事業でも補助金は必要経費の 1/2 で使いづらい。おもてなしについても、成果がすぐに売上に反映するわけではなく、将来に返ってくるもの。昨年さんりく基金を使わせてもらったが、これは 10/10 で 100 万円以内。半分は前払いのような、使いやすいものにしてもらえるとありがたい。本当は人件費にも使えるといい。チャレンジする人は、やれる人が集まっている。補助金をもらおうとすると、コンサル的な人は排除される。役場がすべてできるとは思えないので、町民が力を出せるような、使いやすい補助金制度にしていきたい。

(齋藤委員長) まだ改善されていないポイントもあるかと思うので、今後の展開の中で工夫できるものは、ぜひしていただきたい。

(委員) 軽米町は自殺率が岩手県の中でも上の方ということと、若者の引きこもりも多いということを聞いた。それらへの対策をどうしていったら良いのか。この中には項目としては入っていないが、ぜひ考えていただきたい。また、工事をするとき、最低賃金を市町村で決めるのが良いとか悪いという議論を聞いた。

(齋藤委員長) 今後の事業の展開の中で、今後取り組んでいく中味かと思う。

(事務局長) 自殺者数に関して、今年度の数字はまだ出ていない。26 年度までは確かに多かった。

孤立させないように、啓発活動や見守りに取り組んでいる。昨年冬まではゼロで来ていたが、秋あたりから何人か出ており、残念に思っている。また、最低価格については町でも設定している。ダンプの防止を目的に、2～3年前から取り入れている。

(委員) 引きこもりの若者が集う場所についてはどうか。

(事務局) 引きこもりの実態については把握しておらず、また対策についても難しいと思っている。今の時点で、具体的なものは特にない。今後考えなければならない。

(委員) 別紙2について、子育て世帯の年間転入数が今年度15世帯、また子育て支援広場利用者数も増えているという話だったが、増えているというのは良いことであり、その要因は何か。

(事務局) はっきりとした要因はつかめていない。子育て世帯については、母子家庭が少なからずいるようだ。転入世帯は、乳幼児がいる世帯が中心で、小学校入学前。それが子育て支援広場も利用しているのではないか。利用者の世帯数は20世帯程度と聞いている。他の市町村間の行き来もあるということなので、ママ友間で情報がやりとりされているのか。イベントを開けば人が集まるかも知れない。転勤の世帯もいるので、すべてが長く居続けるかどうか分からないが、そのような状況と聞いている。

(齋藤委員長) 今後の事業の展開とも絡んでくるので、別紙3に掲げてある項目も含めて、ご意見をいただきたい。

(委員) ③の基本目標で、空き家バンク制度というのがあるが、具体的にどのようなものを考えているか。子育て世帯向け住宅ともあるが、それとリンクしているのか？

(事務局) 空き家バンクについては、県内でも何カ所か事例があり、参考にしたいと考えている。不動産業者とのデリケートな関係があるので、配慮しながら進めていきたいと考えている。子育て世帯向け住宅との関係では、空き家の調査を今年度しており、どこにどれくらいあり、使えるかどうかをヒアリングした。町の中で使えるような空き家が20軒あるとしても、今は都市圏に出ているが戻ってくる時に備えて、貸せないという話が多かった。町の取組を、周知をしていきたい。子育て世帯向けとしては、水回りなどに修繕が必要で、それなりにお金がかかりそうな印象。空き家を若い子育て世帯にというのは難しい。

(委員) 観光について、外国人観光客を誘致する流れがあるが、町としてはどのように考えているか。

(町長) 外国人観光客の8～9割は東京、名古屋・大阪、一部は北海道と、流れが限定的。岩手県へはまだ少ない。安比高原にはスキー客が来ているようだ。広域的な取組が必要であり、周辺と連携しながら取り組んでいきたい。

(委員) 子育ての関係で、晴山保育所が統合になり、これまではへき地の保育所ということで負担が少なかった。合併の効果は？

(事務局) へき地保育所から普通の保育所になったが、段階的な軽減措置がとられているはず。また、これまでは受け入れていなかった未満児も対応可能となり、ほぼ見込み通りの人数になった。広く利用いただいております、良い状況ではないかと思っている。

(齋藤委員長) A3横の資料は、今後のことも考えて整理してもらった。これについての意見はどうか。これがすべて実行されるわけではないが、委員の方々から出されたアイデアであり、見えるデータベースと言っている。できれば「軽米でなければできない」という項目がここ

から抽出され、実行されるのが望ましい。今後推進して行く上での、1つの材料として見ていただければ。特になければ、本日出された資料について、本委員会としては承認ということで良いか。(承認)

よろしければ、委員長としての任務は終了となるので、事務局にマイクをお返すする。

#### (4) 答申・町長からお礼のあいさつ

(町長) 今回を含め、長い間議論していただき、また委員長の齋藤先生にはまとめ役に徹していただきお礼申し上げます。説明の中でも申し上げたが、昨年の国勢調査では平成22年の国勢調査と比較して876人が減少しており、年間180人くらいの減となる。亡くなる方が150人を超え、生まれる人数は少なくなるなど、厳しい状況。掲げた目標を下回ったということで、皆さん方にはご迷惑をおかけした。今後は、9,353人を回復させる目標で、取り組んでいきたい。少子高齢化対策では、若者の定住策として、雇用の確保や子育て環境の整備に取り組んでいきたい。鶏糞発電所は4月に完成予定。太陽光も、4月から着工予定。プロイラー産業は、TPPの影響を最も受けないといわれている。また再エネ関係、施設園芸等、軽米町の持てる力を発揮した形での雇用を目指していきたい。皆さんからいただいた意見を、今後活かしていきたい。皆さんにお配りしたA3の図について、町としてまちづくりに取り組んでいくが、右側の項目については、皆さんと連携・協働を図らなければ実現できない。今後ともよろしく願いたい。

(事務局長) 齋藤先生からご発言あったとおり、皆さんから一言ずついただきたい。

(委員) 今日の資料の中で人口が減ったのはショックだが、子育て世帯が増えているのは希望だ。全世帯数は増えているので、別な意味で期待が持てると思った。ここに出させてもらって、町について全体的に勉強させていただき、有意義だった。

(委員) こちらに出席させていただいて、軽米を考えることで、地元の盛岡のことも考えるようになった。これまでは居酒屋だけだったのが、こういう場で意見させてもらって良かった。毎回高速で盛岡から来たが、軽米インターを下りると寂しい感じ。軽米はチューリップのイメージながら、インター周辺には色がない。町の玄関は駅や港だが、ここにはそれがないので、インターが玄関かと思う。そこを楽しくすることで、来た人も喜ぶと思う。繋温泉の人に聞いたが、岩手県に来る外国人観光客は、日本に4~5回目の人が多いと聞く。マニアックであり、日本通な人が来る。来る人はほとんどが台湾から。最近はベトナムからも増えているらしい。岩手は雪がある。雪を見せるとテンションが上がるそうなので、考えていただきたい。商品が売るときにはPRが必要。売っていても、マイナスになっては意味がない。稼いで、事業のため自由に使えるお金を得ることが必要。そのためにはPRが欠かせない。

(委員) すごく良いものができた。とても勉強になった。かるまいブランドということで、少し前に宣伝して歩いたが、PRが下手だと言われた。品物は良いと言われたので、楽しみなところもたくさんある。「さるなしは何か?ものが欲しい。」と言われたが、答えられなかった。

(委員) 海外の人も、軽米に来ている。タイ、台湾、中国から雪と漫画「ハイキュー」の聖地を絡めてきている。今後増えていくのではないか。できるだけ、楽しかった、また来たいと思っ

てもらえるように取り組んでいるが、役場にも支援していただきたい。我々も一体となって頑張る。

(委員) 百人委員会にも出ているが、そこではかるまい交流駅構想について聞いた内容は思ったよりもこじんまりした印象を受けた。良い発想だと思うので、もう少し充実した内容にしてほしい。自分が提案したのは、合同店舗としての交流駅。予算や補助金の都合もあって大きくはできないということだったが、誰でもが行って集える場所であり、ホールやステージのある公民館的な場所もこの中にあればと思う。中高一貫教育について、地域連携型という名目だが、一般の地域の人たちがどういう内容なのかわかっていないように感じる。一般市民の人が軽米中・高のあり方を聞く機会が必要ではないか。本当の地域連携型教育を進めていただきたい。

(委員) 軽米の皆さんが何を考え、どこにニーズがあるかを知ることができ、有意義だった。軽米と言ったら何、というものが出てきて欲しい。資源はたくさんある。それを事業者が事業化して、PR して行ければ良い。飼料米や畜産など、地域外の人がここで事業化しているものもある。

(委員) 子育て世帯について、口コミは非常に重要。口コミを増やす手を講じていく必要があるのではないかと。金融機関からは、地方創生は重要だと考えている。何点か提言させていただいたが、軽米在住や出身の行員の意見を入れさせていただいた。商品やソリューション、金融機関の持つノウハウも活用していただきたい。今後も携わっていきたい。

(委員) 今回の委員会は、町にとって気づきを与えてくれる、重要な会だったと思う。軽米の良さは、よそ者こそ気づくのかも知れない。外部の気づきや発想を町が採り入れる機会があれば、活路が見いだせるのではないかと。少子高齢化は抗おうにも、加速している。かるまいテレビをよく見るが、お年寄りが誇りを持って元気に生きている姿をよく見る。お年寄りがあれば元気に生きている地域は、あまりないのではないかと。都会でサラリーマンを経験した人は、その経験が時代遅れになっているかも知れない。それに比べ、雑穀の栽培は、お年寄りの方がよく知っている場合もあるだろう。広くて、よい環境にあるこの町の良さ、ハイキューの人は自分がイメージする外部の人間、そういう人たちが良さを発見しているところに、光が指すように感じる。

(委員) 今回総合戦略として、3つのわかりやすい方向性を打ち出してあると感じた。ただ、31年度までには到達するのが厳しいと感じる部分も多い。大事なのは仕事の面で、地場で活動されている皆さんが生産性を上げて豊かになるのが一番の基本。食産業、農業の振興は重要。振興局でもそれぞれの分野の専門があるので、生産性を上げるお手伝いをさせていただければと思う。

(委員) いろんなことを考えさせられた。子育て世帯向けの住宅は、コストがかかっても、子どもたちがのびのび育つには、一戸建ての方が良いと思う。

(委員) 再エネ事業の工事の人たちは、八戸から通っているという話を聞き、疑問に思った。今後、太陽光も始まるが、できるだけ軽米に滞在してもらえば、商店街の活性化につながるのではないかと。

(委員) 農協から来ているが、農協の最大の課題は、高齢化によって農業人口が減少していること。

軽米だけではないが。後継者を育てていくことに努力しているが、小さい農業者ほど勤めている関係もあり、農業だけでは生活できず、仕事を続け、農業は辞めていくケースが多い。それに伴って休ませている農地が増えている。地域の中で基幹になっている農業者に活用してもらおうことを進めているが、定着していない。農地を遊ばせてはならないと思っている。5回の会議で皆さんの意見を伺い、軽米のことがよくわかり、ありがたかった。

(委員) 5回の会議を通じて、現状と今後の取組について、大変勉強させていただいた。自分自身、商工会青年部長として、また晴山地区 PTA の代表としても、一緒に取り組ませていただければと思っている。

(千葉副委員長) 長期間にわたり、お疲れさまでした。総合戦略ができたので、大事なのは推進ということ。1つでも多く、1つでも現実化していくこと。県立大として、全市町村に対して総合戦略の策定の支援をさせていただいたが、来年度以降は推進に対して支援をさせていただきたいと考えている。推進する上での困りごとや、専門的な知見が必要な場合に支援をしていきたい。漠然とではなく、目に見える推進をお願いしたい。今後、進捗管理や評価をしていくことになると思うが、その方法についても相談させていただきたい。年1回の評価だと、その事業が進んでいるかどうかはわかりづらいので、半年や四半期に一度程度の頻度での評価という方法もある。年度末の数字に慣れていると思うが、途中の数字で評価することで、進んでいるとか遅れているとかを判断する方法もあるのではないかと。皆さんとの議論の中で、よい戦略ができたので、ぜひ一体となって進めていただきたい。

(齋藤委員長) 昔、岩手大学が国立大として独立するときに「岩手の大地と人とともに」というキャッチコピーを作った。やはり軽米は大地、それに人のコミュニティ、その良い所を活かしていただき、前に進んでいただきたい。

## ○閉会

(事務局長) ありがとうございました。最後に、その他ということで、次年度以降の進め方について説明させていただく。来年度は、推進のための委員会を立ち上げる予定でいる。体制については、年度が明けてから決定することになるが、同じ方々をお願いすることもあるかと思うので、その際にはよろしくをお願いしたい。